

## 平成18年度事務事業評価表

担当	教育委員会	博物館	内線等	8013
----	-------	-----	-----	------

事業コード		事務事業名	企画展等開催事業		
根拠法令等			A 法令	B 条例	C 規則
			D その他	E なし	

総合計画での位置付け

基本目標

施策名

豊かな心と創造性を育むまちづくり	文化
------------------	----

事務事業の内容

対象（受益者）	一般市民に
手 段	常設展とは異なる、テーマをもたせた資料観覧の機会を提供することにより
想定する成果	歴史、民俗、美術などの文化的価値を認識してもらい、地方文化の発展に寄与する。

事業の概要

項 目	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度計画
企画展開催回数	3回	4回	4回
企画展延入場者数	11,948人	21,492人	-

成果指標

成果指標名	企画展1日あたりの入場者数	1企画展あたりの必要経費
成果指標の説明	企画展延入場者数 / 企画展開催日数	企画展延事業費 / 企画展回数

事業の進捗状況（一般会計）

（千円）

		平成17年度決算	平成18年度決算	平成19年度予算
成果指標	計画	-	-	-
	実績	196人	207人	-
成果指標	計画	-	-	2,350
	実績	2,247	2,241	-
事業費	事業費	1,109	1,179	1,512
	人件費	5,631	7,784	7,889
	(人数)	0.7	1.0	1.0
	合計	6,740	8,963	9,401
財源内訳	国			
	県			
	市債			
	その他			
	一般財源	6,740	8,963	9,401

事務事業内容の評価

項目	課内評価		部長評価		評価の説明(問題点)
	18評価	15評価	18評価	15評価	
達成度	2	2	2	2	一部には、大規模な博物館・美術館の企画展と比較して物足りないという意見もあるが、本市の身の丈にあった展示がなされていると考える。
経済効率性	2	2	2	2	地域に密着したテーマを心がけ、予算をかけなくても市民に親んでもらう企画展を心がけている。
事務効率性	2	2	2	2	展示を委託業務化することなく、学芸員のみで行っている。学芸員の資質向上にも役立っている。
必要性	3	3	3	3	博物館における教育・普及活動の大きな柱となっている。
小計	9	9	9	9	
施策への貢献度	2	-	2	-	企画展を通しての資料づくりは、後世への記録保存の意味もあり、一過性のイベントとは異なった研究成果の蓄積が得られる。
合計	11	9	11	9	

達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	B	B	企画展は、博物館活動の根幹をなすものである。その意味では、最低限の市民サービスは図られていると考える。
------	---	---	---	---	---

総合評価は、A～Dまでの4段階評価

これまでに実施した改善点

改善等事項	経費の縮減額
ディスプレイ・看板作成等はすべて職員の手作業で行い、経費の節減を図っている。また、市外からの資料借用をなるべく避け、蒲郡にゆかりの深いテーマにこだわりながら、市民提供の資料を有効活用し、市民に喜んでもらえるような展示を心がけている。また、館収蔵資料の有効利用にも配慮している。	

今後改善すべき点

郷土に密着した展示だけではなく、例えば市制 周年などの節目には、比較的大きな展示会を企画してハイレベルな展示を望む声にも応えていきたい。 また、子供の視点に立った企画展も検討していきたい。
---

平成20年度予算に反映する項目

--

今後の方向性

拡大、充実 ・ 見直し、縮小 ・ 現状維持 ・ 検討中

【各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載】

## 平成18年度事務事業評価表

担当	教育委員会	博物館	内線等	8013
----	-------	-----	-----	------

事業コード		事務事業名	文化財保護事業		
根拠法令等	文化財保護法、県、市文化財保護条例、規則	A法令	B条例	C規則	Dその他 Eなし

総合計画での位置付け

基本目標

施策名

豊かな心と創造性を育むまちづくり	文化
------------------	----

事務事業の内容

対象（受益者）	市内に遺された文化財を、市民共通の財産として
手 段	保存及び活用のため必要な施策を講じ
想定する成果	市民の文化的向上に資する

事業の概要

項 目	平成17年度実績		平成18年度実績		平成19年度計画	
新規指定件数	0件		0件		0件	
史跡等整備事業	0件		0件		0件	
保存補助事業	6件	9,031千円	3件	2,922千円	5件	3,626千円
調査事業	0件	0千円	3件	1,299千円	1件	500千円

成果指標

成果指標名	指定文化財1件当りに要した経費	指定文化財件数
成果指標の説明	文化財保護事業に要した経費 / 全指定文化財件数	国指定6件 県指定7件 市指定104件

事業の進捗状況 （一般会計）

（千円）

		平成17年度決算	平成18年度決算	平成19年度予算
成果指標	計画	-	-	138
	実績	136	131	-
成果指標	計画	-	-	117
	実績	117	117	-
事業費	事業費	10,226	6,794	7,434
	人件費	5,631	8,562	8,678
	(人数)	0.7	1.1	1.1
	合計	15,857	15,356	16,112
財源内訳	国			
	県			
	市債			
	その他			
	一般財源	15,857	15,356	16,112

事務事業内容の評価

項目	課内評価		部長評価		評価の説明(問題点)
	18評価	15評価	18評価	15評価	
達成度	2	2	2	2	文化財保護の何をもって達成というべきか、難しいところであるが、後世に伝えるべき文化財は指定し、保存事業の対象としている。
経済効率性	2	1	2	1	文化財保存事業補助金について、「三谷祭」に偏りがちな傾向が見られ、他の文化財所有者にも制度の周知を呼びかけている。
事務効率性	2	2	2	2	博物館の一般業務と兼ねており、職員(学芸員)の資質を生かした事務配置と考える。
必要性	3	3	3	3	文化財は市民にとってかけがえのない財産であり、これを保護することは、本市の文化行政において欠くことができないものである。
小計	9	8	9	8	
施策への貢献度	2	-	2	-	文化財保護を通して文化振興を図るのが本来の目的であるが、厳しい財政環境の中では、必要最低限の貢献はしていると考えられる。
合計	11	8	11	8	

達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	B	B	文化財保護は、その自治体の持つ文化的土壌(先進性)のパロメーターとされる。その意味では、決して進んでいるとは言いがたいが、最低限、指定文化財を現状のまま後世に伝える努力はしている。
------	---	---	---	---	--

総合評価は、A～Dまでの4段階評価

これまでに実施した改善点

改善等事項	経費の縮減額
市内郷土芸能発表会は、平成18年度で第4回を終えたが、出演希望団体は一巡したと考えられるので、平成19年度からしばらくは、開催を見合わせる。	330千円

今後改善すべき点

文化財の新規指定は、歴史的資料性や保存に対する緊急度等を勘案して、郷土芸能への視野を広げながら、文化財審議会の意見を考慮しつつ検討していきたい。また、近年では「私権」や「財産権」の尊重も配慮しなければならない時代となっており、現在指定している史跡等について、土地所有者等に理解を求め方策も研究していきたい。文化財保護の必要性は誰も認めるところであるが、今後その方法については、審議会・所有者・市民など幅広い意見を聞きつつ対応していかなければならない。
---

平成20年度予算に反映する項目

本市には「藤原俊成」「清田の大クス」「上ノ郷城跡」など全国に誇れる歴史的な遺産や天然記念物がある。これらを市民間のネットワークづくりなどを通して市内外に発信したい。この目的のため平成19年度中に、それぞれの市民グループを発足させる予定である。ボランティア活動を基本とするが、若干の事業費も計上したい。
--

今後の方向性

拡大、充実 ・ 見直し、縮小 ・ 現状維持 ・ 検討中

【各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載】